

新宮山産ぐるーぷ第2282回

行仙宿モノレール終点の荷物置き場に屋根設置

◇実施日 4月5日(金) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、松本吉殖、畑林秀味、湯川一郎

5名

3月31日行仙宿での行事の際、児嶋、乾、畑林の3名が主体となり、モノレール終点の荷物置き場の床拡張と屋根トタン張りの下地造りを行った。児嶋さんは翌日から次の作業準備にかかり、松本君と屋根のトタンや垂木、鉄パイプなどを調達し4月6日に工事の続きをすると決められていた。



増床工事

缶ビールとコーラ

補修資材を運ぶ

4月5日の朝、集合場所にやってきたトラックにはトタンや鉄パ

イプの他、発電機や切断機などの道具類が積まれ、かなりのボリュームと重さがある。加えて連休の缶ビールやコーラもあって、一度にモノレールで運べるかと心配しつつ登山口を目指す。湯川君は出発が遅くなるようだ。



屋根工事

セメントを練る

完成一歩手前

登山口に到着、モノレールの荷台に資材を積み込む。トタンやパイプは長さや幅もあって荷台に収まらず、前後左右にはみ出た状態だったが、ロープで押さえて何とか固定できた。パイプや垂木は荷台より1m以上はみ出しカーブはギリギリの通過で、運転していた児嶋さんはヒヤヒヤしたようだ。

終点についた児嶋さんは一人で荷物を降ろすことができず、歩いて登った我々の到着を待っていた。

荷物を降ろして早速工事開始、松本君が屋根に登って一枚つつトタンを受け取り釘で固定していく。場所が場所だけに下で見ているだけで自然に力が入ってしまう。

屋根工事が進んでいる間に沖崎はコーラ1ケースを担いで小屋に

向かう。2回目はコーラと5人用テントを持って再び小屋へ。小屋から工事現場に戻る途中、湯川君が缶ビールを担いで登ってきた。行仙宿の小屋と管理棟の窓を開け換気を行う。二つの建物に異常は無いかを点検したが、小屋玄関横の引き戸が逆に閉まっていて隙間ができていた。戸締りの際の十分な確認が必要だ。少しのミスが大事につながることもある。

湯川君と二人で工事現場に戻る。屋根のトタン5枚の内4枚が施工済みで、残すは1枚となっていた。お昼も近くなり荷揚げ組2人は残りのケースを荷揚げし、小屋で昼飯とした。



屋根に登って

完成

本日の参加者

屋根の昇り降りが危険なため、畑林君が脚立を降ろすというので同行して現場に向かう。すぐに引き返して2人で食事中、何かを叩く音が聞こえてきた。午後の作業が昼食もそこそこに始まったように、すぐに窓を閉めて工事現場に戻った。

屋根工事は終了、児嶋さんは3方の壁にトタンを張るために垂木で下地造りを行っていた。

沖崎、湯川で拡張部の基礎固めのためパイプの周りに石を積み、モルタルを流し込んで固める作業を行った。基礎固めも終わり、次回張るトタンの寸法などを測り本日の作業を終了した。

この工事は計画から作業手順、実際の作業など、児嶋、松本のお二人がいてこそ出来たことで、新品の屋根鋼板は松本さんが、鉄パイプ、垂木は児嶋さんが寄贈してくださった。

(記：沖崎)